

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org

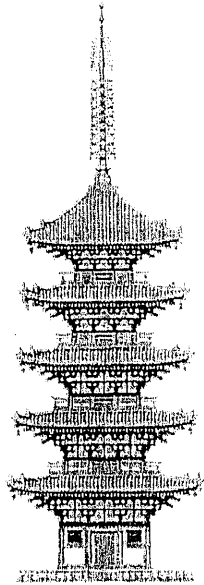
候補地選びの大バトル！

皆さん、こんにちは。十月も後半になりました。早いもので、あと二ヶ月で年末ですね。今年はどうな年の瀬になるでしょうか。

さて、前号では、覚王殿建設地がなかなか決まらず、シヤム国王やシヤム駐在の外山公使から帝国仏教会がお叱りを受けたというところまでお話ししました。

慌てた帝国仏教会は、覚王殿を京都に建設することを「仮決議」しました。しかし、「是非、私たちの地元で！」という宗派がたくさんありましたので、各宗派は「仮決議」に納得せず、「仮決議」は事実上反故（ホゴ）白紙にされました。何だか、公共工事や空港の誘致合戦みたいですね。

さて、こうした混乱の中で、有力候補地として頭角を表したのが**名古屋**市です。会員五十余万人を擁する名古屋市の「御遺形奉安地選定期成同盟」が、熱心かつ強力



な誘致運動を展開しました。多額の寄付金、建設用地、有志数百名の連署で帝国仏教会に請願書を出したほか、愛知県知事、名古屋市長も帝国仏教会に書簡を送りました。シヤム駐在の日本の公使や領事にも陳情を行い、外務省からも後押しされるようになりました。

決戦、建仁寺！

明治三十五年十二月（一九〇二）、シヤム国王太子が日本を訪問することになり、帝国仏教会は、何とか皇太子訪日までに覚王殿建設地を決めることを迫られました。同年七月二十八日、急遽、京都で各宗派管長会が開かれ、大激論の末、建設候補地は名古屋と京都に絞り込まれました。各宗派は名古屋派、京都派に分かれ、候補地は一本化できず、結局、十一月十二日に最終決定会議が開かれることとなりました。場所は京都市東山の**建仁寺**（京都最初の禅寺、臨済宗）、いよいよ「天下分け目の関ヶ原」という感じだったようです。当時の記録によれば、建仁寺

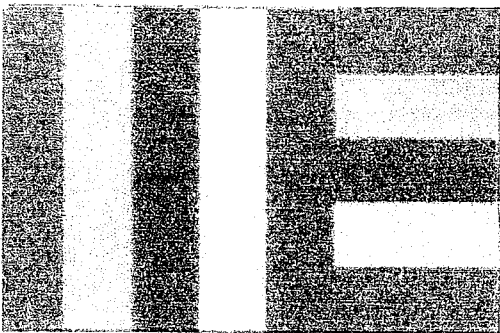
周辺は朝早くから殺気立ち（仏教の話にふさわしくないですね、この表現。でも、そんな感じだったようです）、今にも両派の大衝突が起きそうな様相を呈しました。午前中の会議では名古屋派が優勢であったため、午後の会議では京都派が採決方法に異議を申し立てましたが受け入れられず、会議をポイコットする事態になりました。そこで、残った委員で強行採決を行い（国会みたいですね）、二七対一で、ついに覚王殿建設地は名古屋市に決定しました。

十一月十五日、仏舍利はただちに名古屋市に奉遷することになり、仮奉安所は**門前町（大須）の万松寺**になりました。当日の名古屋市内は、家々が**仏旗**（ぶつき）と軒燈を掲げ、万松寺までの奉迎行列は数十キロの長さに渡ったそうです。記録によれば、行列の莊嚴さは筆舌に尽くし難く、まるで皇太子様のご成婚記念行列に匹敵するものであったと言います。ところで皆さん、仏旗をご覧になったことありませんか（下図参照）。合計五色で彩られた美しい旗です。

翌明治三六年（一九〇三年）十月、名古屋市東区（現在の千種区）田代町で覚王殿造営が始まりました。翌年十一月に仮本

仏 旗

青 黄 赤 白 橙



青 黄 赤 白 橙

堂、玄関書院が落成しました。覚王山日泰寺はどの宗派にも属さない単立寺院で、今も創建当時の十九宗派で共同運営されています。

でも、どうして覚王山？

次号では、名古屋市内の中でも、どうして現在の覚王山が選ばれたのかを調べてみたいと思います。

・参考資料 「菩提樹仏教夜話」
（京都紫雲寺）

「覚王山秋祭」十月二六日（土）二七（日）開催！

日泰寺参道が「覚王山秋祭」会場に変身！今年はいろんなパフオーマー達が参道をねり歩き、米場者の皆さんや出店者の方を巻き込んで盛り上がりします。開催時間十時～十七時